



表通り裏通り

# 自分たちの 音をめざして

全国高等学校総合文化祭  
連続29回目の出場に向けて

星野高校箏曲部は、昭和五十二年に創部され、同五十四年から昨年まで、二十八年連続で、日本音楽のインターハイと呼ばれる、「全国高等学校総合文化祭（高校総文）日本音楽部門」に出場しています。

昨年八月、京都府で行われた高校総文では、出場した五十四団体の頂点となる、文部科学大臣賞を受賞しました。今月二十二日(木)からは、文化庁の国際交流事業の一環として、中国で演奏する予定です。

昨年十一月二十四日に行われた高校総文の県予選、「県高等学校総合文化祭・高校邦楽祭」で、星野高校箏曲部は、ことしの高校総文の出場を決めました。

驚いたことに、部員のほぼ全員は、入部するまで箏を触ったことがありませんでした。入部した動機を尋ねると、「部活紹介で見た演奏に感動した」という意見が多くありました。どの部に入るか迷う中、先輩たちが披露した演奏に心打たれ、入部を決めたそうです。

入部後、箏の持ち方・正しい方から始まり、教則本で基礎を学び、演奏会や同校の文化祭などで経験を積んでいきます。

部長の金森希実子さん（二年）は、昨年高校総文に参加

した一人です。「三年生と経験差があるので、先輩たちと同じように弾けるか不安でした。本番は、やりきったという満足感がありました」と昨年を振り返ってくれました。箏は、微妙な調整をしながら



2008 日独青少年交流コンサート  
同校で行われた、日独青少年交流コンサートで演奏を行う、1・2年生。高校総文では、写真同様に25人で演奏します



教則本を見ながら演奏する1年生。先輩に続くため、基礎力の修得が肝心です

ら自分で音を作っていく楽器。同じ曲でも、弾く人によって音色が違ってくるそうです。大人数で弾くときには、各自の音楽性を生かしながら、音を作り上げます。

「まだ、全員の技術・心の統一ができていません。これから、悔いのないよう練習し、本番ではいい演奏をしたいです」と高校総文に向けて、意気込みを語る金森さん。演奏会が近づくと、重圧を感じると言います。先輩たちはそれをねのけ、自分たちの音を作りました。「今はたいへんかもしれないけれど、演奏が終わったときによかったと思えるようになってほしい」「自分たちの音で、聞く人に感動を与えてほしい」と、まもなく卒業する三年生は、後輩たちを応援しています。

## 頑張れ！ 川越のバレーボールチーム



2月19日、舟橋市長を表敬訪問した、市立川越高校女子バレーボール部の皆さん



大会に向けて気合いが入る、BEATの皆さん

川越から2つのバレーボールチームが全国大会に出場します。市立川越高校女子バレーボール部は、3月19日(月)からさいたまスーパーアリーナ(さいたま市)で行われる、春の高校バレーに出場します。1年生中心のチームで、「来年、川越で行われる高校総体に向け、経験を積みたい」と小峰一磨監督は話していました。高階地区で活動しているママさんバレーボールチームBEATは、3月28日(水)から北九州市で行われるママさんバレーボールの全国大会に出場します。選手15人で、1つでも多くの勝利を目指します。「大会出場に協力してくれる家族に感謝し、楽しんで試合に臨みたい」と主将の石川晃代さん。川越の代表として、健闘をお祈りしています。

## 寒空を吹き飛ばして

児童センターこどもの城で、2月25日に行われた、「とびだせあそび」。毎回、大学生のボランティアが内容を企画しています。



さあ、追いつめろ！

この日は、Sケン・色おに・どろけい・大縄跳びで、集まった子どもたちは、およそ20人。元気いっぱい走り回る子どもたちに、「もう足が動かない」と大学生がたじたじの場面も。



みんなで呼吸を合わせてジャンプ！



優良賞を授賞した東さん

全国コンクールで、二人の児童が受賞した川越。これからは読書の大好きな子どもたちが、たくさん増えることを願っています。

ト」。毎日、お父さんと日記を交換しています。全国コンクールで、二人の児童が受賞した川越。これからは読書の大好きな子どもたちが、たくさん増えることを願っています。



優秀賞を授賞した橋本くん

東さんが選ばれました。橋本くんが本を読むようになったきっかけは、学校で、本を三十冊読むと認定証をはってくれる「読書マラソンカード」。友達より多く本を読もうと頑張っているうちに、読書が好きになりました。今では、西図書館から本を借りてきて、毎月十冊以上読んでいます。また、文章を書くことも好きで、作文の時間は楽しみにしています。

橋本陸くん(9歳・上戸新町)  
東純麗さん(7歳・南台三丁目)

川越  
あそび  
23